

## 県内の JAS 認証を取得している水稲有機栽培事例

### 【1 成果の概要】

岩手県内で取り組まれている、JAS 認証を取得している水稲有機栽培のうち、取り組み面積の大きい 3 事例の技術的な特徴を整理しました。

#### (1) 収量性

- ・ 雑草害のために全体的に収量が低めですが、**上手く除草できた場合には、慣行栽培に近い収量を得ている事例もあります。**

#### (2) 技術の特徴

- ・ 調査した全ての事例で、**成苗を疎植（15 株/m<sup>2</sup>程度）で栽培しています。**
- ・ 育苗培土や肥料は有機栽培で使用可能な市販のものを利用している事例が多く見られます。
- ・ 雑草対策として、「アイガモ」、「米ぬか+深水」、「紙マルチ」と様々な技術が導入されています。「アイガモ」、「紙マルチ」を導入している事例では、比較的うまく除草できています。

#### (3) 技術的な課題

- ・ 病害虫対策は、現在のところ有効な手段がないために、**初期害虫や斑点米が慣行栽培より多く発生しています。**

事例	アイガモ	大規模	小規模		慣行栽培 (参考)	
地域	M市、H市	O市	I市			
規模(人数、面積)	4名、10ha (一戸あたり2.7ha)	1法人、4ha	約20名、10ha (一戸あたり約0.5ha)		-	
品種	あきたこまち ヒメノモチ、陸羽132号	ひとめぼれ	ひとめぼれ、あきたこまち		-	
育苗	種子	購入種子 (一部品種自家採種)	自家採種	自家採種	購入種子 (採種圃産)	
	種子消毒	温湯消毒	温湯消毒	温湯消毒	化学合成農薬	
	使用培土	購入培土	自家製	購入培土	購入培土	
	育苗様式	成苗・箱	成苗・箱	成苗・箱 or ポット	稚苗・箱	
施肥	基肥	ぼかし肥料(自家製) 購入肥料	鶏糞+米ぬか +くず大豆	購入肥料	化学肥料	
	追肥	購入肥料	実施せず	実施せず	化学肥料	
移植	移植時期	5月下旬	5月下旬	5月下旬~6月上旬	5月中旬	
	栽植密度	18株/m <sup>2</sup> 程度	15株/m <sup>2</sup> 程度	15株/m <sup>2</sup> 程度	20株/m <sup>2</sup> 程度	
病害虫 雑草管理	雑草防除	アイガモ (+手取り除草)	米ぬか+深水管理 (+機械除草)	米ぬか+深水管理 (+手取り除草)	紙マルチ	除草剤
	初期害虫 防除	アイガモ	無防除	無防除	無防除	化学合成農薬
	いもち病 対策	疎植 (地域の発生が少ない)	疎植	疎植	疎植	化学合成農薬
	カメムシ 対策	無防除 (畦畔草刈のみ)	無防除 (畦畔草刈のみ)	無防除 (畦畔草刈のみ)	無防除 (畦畔草刈のみ)	化学合成農薬
収量 (最高~最低)	450kg/10a (510~420)	350kg/10a (410~190)	300kg/10a (375~100)	350kg/10a (450~220)	533kg/10a (県平年収量)	

### 【2 留意事項】

- ・ 「有機栽培農産物」として流通させるためには、認証団体の認証を取得する必要があります。
- ・ 有機栽培において、使用できる資材は認証団体毎に異なることがあるので、事前に確認する必要があります。